

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「①自由な暮らし②願いや思い③人との絆 そして自分らしさを大切に」という理念を基に活動している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は見やすいところに掲示すると共に、カンファレンス等の会議では理念を基に、よりよい生活支援になるようにケアプランを作成している。 朝の申し送り時には、必ず唱和している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	二ヶ月に一度、運営推進会議、家族会を行い、活動内容の報告、検討を行っている。 ホーム便りを配布し、地域における認知症ケアの推進に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	こども見守り隊における小学生との関わりや、ゲートボール大会等の地域の行事へ参加し、顔なじみの関係作りに努めている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人の清掃活動であるクリーンアップ運動や下校時のこどもの見守り、地域の保育所や幼稚園、小学校等の行事、地域のゲートボール大会や運動会等の応援による参加を通して交流を深めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	緊急時の避難場所として地域へ提供している。 近隣の方に菜園で採れた野菜を配ったり、挨拶や声掛けを行い、地域住民が気軽に立ち寄ることができ、相談できるような関係作りを図っている。	○	現在、認知症等による徘徊、身元不明者の一時的な見守りの場としての提供を検討している。 地域住民との関わりを増やし、さらなる地域への取り組みを考えていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が外部研修へ参加し評価の意義を理解するとともに、職員への理解を深めている。 評価は全職員で行い、前回の改善点である金銭管理においては、定期的にご家族のサインをいただくことで、使用用途や残金が明確になりご家族の理解と信用を得ている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では自己評価や外部評価の結果を報告し、会議での意見や助言をさらに検討し、更なるサービス向上への課題へつながるよう、会議で全職員へ伝達している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	新人の市役所職員の現場研修を受け入れ、認知症の方の理解や意識改革につながるような研修プログラムを立案し、現場職員との意見交換もを行い、サービスの向上につとめている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ごく少数の職員のみしか理解、活用できていない。	○	積極的に研修へ参加し、理解を深めるよう、取り組んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人研修にて教育すると共に、身体拘束や人権について定期的に研修会や勉強会を行い、意識付け、防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明や契約書において、ご家族や本人さんからの疑問点等があった場合は、十分な説明を行い、理解、同意を得ている。 また、家族会(2月に1回開催)を通して、ご家族のみで協議してもらい、不安や疑問点の描出に努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意思表示が可能な方は、個別に居室にて意見や不満が聞けるような時間をもうけ、不可能な方へは、ご家族からの助言やアドバイス、本人さんの様子からその人らしい生活が送れるよう会議の場で検討し反映している。 第三者や県、市への苦情受付の窓口を明示し、利用者の意見が反映できる体制を整えている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には日常の様子や健康状態を報告している。 健康状態においては、必要に応じ即日報告を行い、受診等の理解や協力が得られるようにしている。 預かり金は定期的にご家族に使い道及び残金を確認していただき、サインをもらっている。	○	面会の少ない方へは、暮らしの報告書(面会記録)を参考にし、定期的に近況報告を行っていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者や県、市への苦情受付の窓口を明示し、利用者の意見が反映できる体制を整えている。 2ヶ月に1度の家族会を通し、ご家族のみで協議してもらい、描出に努め、意見や苦情を会議で全職員へ伝達し、吟味、反映している。 個別に担当職員を付け、職員と家族とのなじみの関係作りに努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の職員会議において全職員に意見を求めている。 法人の上司による個人面談を行い、意見を個別に求めている。 職員の意見を全員で共有し、人事異動や事業所の課題などを理念にてらし、運営に反映できるようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	月に1度の職員会議にて検討している。 必要に応じ、勤務変更を行い、ゆとりをもてるよう調整している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は最小限に抑えているが、ローテーションや研修生の受け入れ等で職員の顔が増えることは多い。入居者によく説明し、納得していただくことで、逆に力を発揮される場面もみられる。 また、利用者から様々な職場を体験することの必要性を教えられることもある。		
5. 人材の育成と支援				
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては、年齢性別を問わず、採用対象から排除しないようにしている。 職員の能力が発揮できるように助言し、生き生きと末永く働けるように支援している。		
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	「自分なら」と念頭に置き、母体での人権、接遇研修などに参加し、日頃より職員に対して意識化している。		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他事業所の研修会やその他の外部研修等への参加を促し、職員の質の向上に努めている。 新人職員には、8時間のオリエンテーションと2週間のローテーションにより、様々な職場を体験してもらう教育制度を設けている。		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の安心介護相談員を交えた交流会に積極的に参加し、意見交換している。 また、県のグループホーム協議会にも会員登録し、勉強会にも積極的に参加しているとともに、他事業所からの研修を受け入れ、交流を図り、第三者からの「気付き」を得てサービスの向上に取り組んでいる。		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	月に1度以上の会議での意見交換や職員だけの食事会を行い、交流を深め、気になる職員には個別に時間を設け、身体的、精神的ストレスが蓄積しないよう配慮している。 また、時間にメリハリをつけ、入居者と距離を置く時間をもてるよう心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	一人一人の個性、長所を把握し、研修生の指導等を通して、能力を発揮できる場を作り、自信を持たせることで、職員の向上心アップを図っている。 また、介護福祉士やケアマネージャー等の資格取得への支援を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居当初は、本人を取り巻く環境の変化からくるダメージを最小限にするために、馴染みの家具で部屋を整え、ゆっくり会話をする時間を取っている。その中で、本人の希望や不安なことを傾聴し、安心して暮らせるよう支援している。	○	開設から3年が経過したため認知症対応型通所介護の申請を行い、入居前にご利用いただくことで在宅生活中から馴染みの関係作りに取り組む予定である。
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望時や相談時は必ずホームを見学していただき、利用者の様子を見ていただいている。 また、相談に応じる過程から、本人さんやご家族のニーズを知るとともに、ホームの理念を理解していただき、納得の上の利用となるよう努力している。		
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用申し込みの際、現在の本人さんやご家族の状況をお聞きし、緊急性があれば他の事業所を紹介したり、法人内のサービスであるショートステイの利用、配食サービスといった他のサービスを紹介するなどし、対応に努めている。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者にはホームを見学していただき、他の利用者との交流が図れるよう工夫している。	○	認知症対応型通所介護を申請し、入居前から馴染みの関係作りに取り組む予定である。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	女性の入所者が多く、食材の使い方や料理方法、味付けや味見をしていただき、その方の馴染みの料理を学びながら、経験されたことや様々な知識を教えていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	花見や忘年会を行うときはお手伝いを依頼するなど、ご家族にも積極的に参加していただき、ともに作り上げともに楽しむ関係を大切にしている。		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族より情報を得て、大牟田方式によるアセスメントを行い、利用に至るまでの経緯について情報を集めている。ご利用者本人にとって良いと思われることをご家族へ伝え、理解を得ている。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時は居室だけでなく、リビングや和室など自由に過ごしていただいている。 入居前に利用されていた病院や理髪店等との関係を継続し、利用していただいている。 親しい友人や知人の面会も積極的に受け入れている。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の準備や後片付け、洗濯物たたみ等個人の能力にあった役割を持っていただき、利用者同士が関わる機会を設けている。 トラブルが起こりうる可能性がある関係の利用者間には、職員が間に入り関係作りに努めている。		
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	法人外へ転居された方には、利用時に気の合った入居者の方とともに訪問し、関係が断ち切れないようにしている。 法人内へ移られた方へは、頻回に訪問し、声掛を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意志表示が可能な方には、個別に時間を設け、困難な方にはご家族からの情報や本人さんの表情等から希望や意向を予測し、個別に担当者を決め、なんでも言える関係作りを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にも協力していただき、アセスメントを記入していただくことで、利用前の生活の様子や環境、家庭での役割等を知り、ホーム内でも生かせるよう努めている。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日のバイタル測定による体調や排泄の確認からはじまり、掃除や皿拭き、ゴミ捨てなどの日常生活動作を総合的に把握し、余暇として革細工や頭の体操等の参加や外出に取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常生活の中から、本人の想いや希望を引き出し、面会時にはご家族にも意見をもとめ、本人本位の介護計画の作成に努めている。 また、介護計画は本人さんとご家族にも見ていただき、サインをいただいている。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月月末に経過を記録し、終了時には評価を行い本人さんの変化に対応している。 ケアプラン期間中であっても変化があればご家族や医師等の関係者と協議し、変更を行っている。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録用紙とともに、介護計画、心身情報シートを記入し綴じ込み、必要に応じてセンター方式を活用し、情報の共有を図るとともに個別に担当を決め介護計画の作成、見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症の状態の変化に応じて相談できる医師を確保し、面会時等には日々の状態を報告し、理解を得ている。 又、疑問や状態の変化等があった場合は随時相談できる体制が出来ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通し、民生委員の方々や地域住民との食事の機会を設けることで、入居者を理解していただき、馴染みの関係作りを行っている。地域の学生などを積極的に受け入れ、職員以外の第三者との交流を図っていただき、新たな気づきの発見に努めている。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	協力病院の医師による往診や訪問看護、法人内の特養やケアハウスのケアマネージャーとの連携等、法人全体でのサービスを目指している。 また、本人さんの意向が疾患のため制限せざるを得ない場合は、栄養士や看護師と協議し、本人さんの意向に沿えるようにしている。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターの職員にも運営推進委員として、運営推進会議に参加してもらい、助言やアドバイスもらえるよう体制を作っている。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者およびご家族が希望される医療機関に受診され、受診時には個別に生活の様子を記入したものを医療機関へ提出し、日頃の変化を伝え適切な情報の提供を図っている。また協力病院からの往診を受けられる際には、個別に往診の期間を設けている。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	日常の様子から個別に心身情報シートや個人記録等を記入し、協力病院の医師に報告を行い、指示や助言を仰いでいる。 変化時には速やかに報告、指示が仰げる体制にある。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	スタッフに看護職員が配置されているが、入居者やご家族、医師と相談の上、ホームでの治療が可能な場合は、訪問看護サービスを利用される場合もある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	本人さんやご家族の意見を聞き、早期退院に向け医療機関との連携のもと、ホームでの治療が可能ならば訪問看護サービスを活用している。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人さんの意思や家族の意向等を聞き、協力病院の医師にてムンテラを行い、その後の方針を本人さんの願いを尊重し決めている。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	緊急時や変化があった場合は、その都度会義を行ない、本人さんやご家族の意向を考慮したうえで、協力病院の医師とともに検討している。 また、吸引器やパルスオキシメーター、AEDも設置し、使用方法を理解している。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族が入居者と十分話し合い、納得の行く転居先に移れるよう支援している。退去後も面会し、退去先の職員との連携を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録物は所定の場所に保管し、ホーム外へは持ち出さないよう徹底している。 プライバシーを傷つけないよう排泄の失敗等は個別に居室に誘い、対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入浴や外出等必ず本人さんの意向を聞き、自己決定していただき、支援している。 また、個別に声掛けを行い、本人さんの希望が言える機会を作り、希望に沿えるよう支援している。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出の希望があれば入浴を遅らせ外出したり、食事の時間をずらしたりと柔軟に対応している。また、業務に細かい決まりを作らず、いつでも希望に沿えるよう体制を整えている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	昔からの行きつけの理容店へ送迎を行ったり、外出時は口紅や化粧をし出かけている。 男性は髭剃りを持参されたり、女性は居室に鏡台や化粧品等を準備してもらい、各居室には鏡を設置している。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方とともに台所へたち、協力しながら調理し、同じ食事をとっている。また、片付けの際も食器をすすいだり拭いたりとともにやっている。 入居者から食べたい食事を聞き出し積極的にメニューへ取り入れ、毎月1日と15日には赤飯を用意し楽しみをもってもらっている。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望時は買い物へ付き添い、自由に買い物をしていただいている。 また居室に冷蔵庫をもってある方もおられ、いつでも好きな時に食べれるように支援し、定期的に職員が冷蔵庫の中身を見せてもらい、確認している。	○	飲酒や喫煙に関しては、現在はおられないが、希望があればいつでも受け入れる体制にある。
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成しトイレ誘導を行い、排泄パターンの把握に努め、個別に対応している。 入居前の排泄パターンを家族等へ聞き、参考にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は無理強いせず、毎日声掛けを行い、入りたい時に入っている。 希望者は温泉へ行き、入浴を楽しめるようにしている。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を大切にし、食事や入浴、休息等個別に行える様体制を整えている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	若い頃の趣味を取り入れたり、買い物や外出の機会が多くもてるよう努めている。 新聞取りや洗物等の役割をもってもらい、生活されている。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の可能な方には、買い物へ出るときは財布をもって出かけてもらい、自ら支払っていただいている。また、支払いが困難な方へは、職員が払ったり、預かり金とし、ホームで管理させていただいているお金から支払っている。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や自宅への宿泊を希望されたときは、付き添いや送迎を行い、希望へそえるようにしている。 正月やお盆等にはご家族へ外泊の声掛けを行い、自宅にて過ごされるよう勧めている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見、座敷梅見学、ドライブ等を季節にあわせて生活の中に取り入れ、希望時は個別あるいは他入居者とともに出かけている。 ご家族にも協力していただき、本人さんとご家族のみでの外食や、面会時には車椅子を貸し出し、ご家族との散歩を勧めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望されるときはダイヤルし、本人さんと変わり話していただいている。 本人さん宛ての郵便物は、直接本人さんへ渡し、了解を得てから内容を確認させていただいている。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室で過ごされる際はお茶を入れ、くつろいでいただいている。 希望時は食事や入浴、宿泊も可能である。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人の職員研修や併設特養での職員研修等を行い、法人全体で取り組んでいる。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中施錠せず自由に入出りできるため、センサーをつけ、室内に音で知らせている。 出入口のドアに鈴をつけ、出入りが把握できるようにし、非常口には帯などでカモフラージュしている。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホームから出られた際は、声掛けを行い付き添ったり、後ろからついて行く等安全に配慮している。 ホーム内では基本的に自由であり、定期的に声掛けを行っている。 夜間は定期的に巡回し、状態観察を行っている。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	夜間、洗剤や刃物等危険物は戸棚や引き出しになおし、目につかないようにしている。 刺し子をされるかたは、針やはさみ等を居室にもってあり、定期的に職員が確認している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	それぞれに担当職員をきめ、居室の整理整頓を心掛けている。 足元の安全を確保し、個々にあわせ手すりを設置する等の配慮をしている。 地域の警察署や消防署、地域住民への協力を依頼している。		
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルを作成し、全職員が対応できるようにしている。 併設特養にて研修を行い、訓練している。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練を年に2回実施し、運営推進会議や日常の交流の中で協力を働きかけている。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	主治医と共に家族に説明し、把握していただき、1人1人に応じた対応策も状態の変化と共にその都度話し合い、スタッフ全員で対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝のバイタル値や表情の変化などに異変があれば、看護師や医師、他のスタッフにも申し送りを行い、悪化しないよう見守るとともに、再検や観察を行っている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服カードを個別に保管し、副作用や用法の把握に努めている。 往診時の医師の説明等、スタッフ全員が把握できるよう、申し送りを徹底している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	適度な運動、水分補給、下剤の使用など、1人1人に応じた排便コントロールを実行している。		
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯洗浄、うがい、歯磨きを1人1人に応じた介助を行い、毎食後の日課として、習慣付けて実行している。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の嗜好、食事の量、体調を考慮してバランスのよい食事作りを行い、毎日の食事摂取量のチェックを記入し、水分量も把握できている。 食事療法が必要な入居者には、併設事業所の管理栄養士の助言を受けている。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対してマニュアル作成を行い、スタッフ全員で実行している。 食器乾燥機で高温殺菌処理を行っている。 インフルエンザの予防接種を全職員、入居者ともに接種している。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理前の手洗いの励行や消費期限のチェック、使用後の調理用具や布巾の消毒、冷蔵庫内の整理整頓を心掛け毎回行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには階段とスロープの両方を備え、誰でも気軽に出入りできるようにしている。 季節の花などを植え、親しみやすい環境作りに努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	造りは洋風だが、和室の空間を作り、家具や飾りも古風な感じの物を揃え、家庭的で過ごしやすい雰囲気を作っている。季節に応じた花や飾り付けをし、季節を五感で感じてもらえるような環境作りを心掛けている。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングではテーブルの椅子やソファ等利用し、思い思い過ごされている。 必要に応じ和室や居室も使用されている。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家庭からタンスやテレビ、ピアノ等馴染みの物を持ち込まれている。 若い頃の写真や家族の写真、興味のある物等個々に揃えてあり、自分らしい居室になっている。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的窓を開け換気を行うとともに、リビングには24時間換気扇を設置している。 消臭剤を使用し、快適な環境作りを行っている。 リビング、居室、脱衣所とそれぞれにエアコンを設置し、個々に快適に室温に保てるよう配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットからトイレまで、ベット柵をつたえるような配置をしたり、移動式の手すりの設置、椅子や家具を用いて、自立した生活が送れるよう工夫している。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	布団やベット、紙パンツやオムツ、手すり等個々にあわせ使い分けることで、自立した生活が送れるよう工夫している。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内に菜園を作り、季節の野菜を作って収穫し、食材として提供している。 ベランダにはプランターを用い、季節の花を育て、自由に入りできるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

福岡県 グループホーム なかまちの家

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
100	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

なかまちの家では、入居時に今まで使用していた家具や生活用品、本人やご家族の思い出に残る写真等を自由に持ち込んでいただき在宅に近い環境を作るとともに、馴染みのものを使用いただき「自分らしさ」を尊重し、個性を大切にしています。常にゆとりをもち、掃除から食事の準備（もやしの根切りやじゃがいもの皮むき、炒め物）、後片付け（引き膳や食器洗い、食器拭き）等の日常生活を職員とともに行い、家族の様な関係作りを目指しています。職員にも個性があり、様々ですが、月に1回以上の会議や申し送りにより一人ひとりの入居者や生活歴を理解し、本人さんやご家族の意見をケアプランに繁榮させ、チームとして統一した支援の提供に取り組んでいます。職員は法人内での研修や外部研修に積極的に参加し、個々にスキルアップを図り、サービスの向上につなげています。敷地内には畑を作り、季節の野菜や花を育てて収穫したり、季節に合わせて初詣や花見、外食やドライブ等に出掛け、外出することで五感を刺激し季節を感じていただけるよう支援しています。また、食材や備品の買い物には入居者とともに出掛け、入居者も自らの必要な物をご自分で選ばれ、自由に購入されています。他にもクリーンアップ運動として地域の清掃活動に参加したり、地域の保育園や幼稚園の演奏会や踊りの発表会、小学校や中学校の総合学習発表会や運動会等の参加、地域のゲートボール大会の応援、地域小学生の下校時の見守りなどにも積極的に参加しています。地域住民や協力病院等に向け新聞を作成し、ホームの活動や日頃の入居者の様子を理解していただき、誰でも気軽に立ち寄れるようはたらきかけています。さらに、法人内では隣接する事業所で行われている「頭の体操」や「革細工」、「回想法」などもあり、理学療法士や作業療法士によるリハビリを兼ねたレクリエーションを行うとともに、法人全体での連携の強化にも力をいれています。